▶[カメムシ類対策（水田内対策と薬剤防除）]

①近年、水田内への除草剤の適期散布が行われず、水田内にホタルイ類、カヤツリグサ、ノビエなどの雑草の発生が目立つ圃場が増加しています。除草効果を高めるためにも、除草剤の選択および散布時期、漏水対策や水田の均平を図ります。また、本田防除では出穂期以降2回防除の徹底が重要です。

≪薬剤防除の効果を高めるには≫

- ●野立て看板を参考とした適期防除に努める
- ●各地域においての一斉防除を基本とする

②除草剤散布は代掻きからの逆算が重要となります。代掻き後に雑草が動き始めるため、初期剤は代掻きから10日以内に、一発除草剤のみであれば15日以内とできるだけ日数を空けすぎずに散布できる作業体制に努めましょう。

▶[安定収量確保]

近年の気象変動のなかで高品質米の安定生産を図るためには、計画的な作業技術に基づき、適期移植を基本として、健苗の育成、適切な栽植密度、植え付け本数の確保、活着を促進させる水管理を行います。また、適切な中干しや深水管理による分げつ抑制、幼穂形成・減分期での栄養診断に基づく施肥を行います。好適田植え日は、県中央地区では5月20日～25日頃です。

大豆

天候に恵まれて適期の播種および中耕・培土などの管理作業を行うことができ、生育は順調に進みました。しかし、一部の地域では7月に発生した豪雨による河川氾濫によって冠水・浸水被害を受けたため、湿害や茎葉裂傷などが見受けられました。

10月の中旬以降は、長雨の影響によって刈り取り作業が遅延し品質の低下が想定されましたが、例年より10～15％程度と大粒率が高く85％程度の実績となりました。また、子実においては紫斑病などは非常に少なく、虫害や皮切れが多く発生しています。

園芸

春先の低温により多くの品目で初期生育の停滞が見られましたが、5月中旬からは天候に恵まれ、順調な生育となりました。園芸品目のほとんどにおいて、他産地の物量の関係から低単価で推移し、品目によっては前年度から出荷数量は増加しましたが、販売額は前年度を上回ることができませんでした。

▶[枝豆]

今年度は、作付面積が80.1ha（前年比110％）、出荷数量192.9トン、販売額9,778万円となりました。

播種作業は順調に行われましたが、春先の低温によりマルチ栽培でも発芽遅れや生育停滞が見られました。5月連休明けからは天候に恵まれ、中生品種までは大きな病害虫被害もなく収穫に至りました。晩生品種は、夏場の開花期が高温干ばつ傾向となったため着莢が悪くなり、低反収となりました。また、ダイズサヤタマバエの被害も多く、製品率に大きく影響が出てしまいました。

販売面では、中生まで順調に収穫され、出荷数量は前年対比141.7％となりましたが、関東産の残量や東北産の物量が多く、出荷開始から安値傾向で推移しました。販売額も前年の104％と上回る結果となりましたが、県内外の市場向け販売では課題が残る状況でした。次年度は契約販売を増やし、安定した単価がとれるよう取り組みます。

▶[ネギ]

作付面積は39ha（秋田地区16ha、男鹿地区23ha）となり、基盤整備事業が増え、園芸メガ団地や高収益作物の複合経営などといった法人による作付けが拡大しました。秋田地区・男鹿地区のネギを共同計画で県外に出荷するなど、高単価販売に向けた流通の拡大に取り組みました。

8月下旬から出荷量が増加し、天候に恵まれて病害虫被害もなく生育が順調に推移し、収量があり好調でしたが、10月からの秋冬ネギでは、降雨が多く収穫できない日も多くありました。

今後、安定した単価の時期（夏ネギ）への生産振興や、新規市場開拓などの販路拡大にも取り組みます。

★今月のあなたの運勢 2022年2月★ 牡羊座（3.21～4.19） 人間関係に広がりが見られます。何かと用事が増え仕事面は大変ですが助けてくれる人が、連絡を密にして開運